

ニュースレター第27号をお届けいたします。今号は樋野先生とスタッフの青木が担当します。

視野狭窄にならず、ニューモア溢れる～継続の大切さ～

樋野興夫（順天堂大学名誉教授、新渡戸稻造記念センター長、恵泉女子学園理事長）



2025年3月22日、『お茶の水メディカル・カフェ in OCC(2012年5月26日スタート)』に出席した。多数の参加者で、筆者は4組(7人)の個人面談の機会が与えられた。スタッフの皆様の【私たちには、出来ることと できないことがあるが、出来ることは頼まれれば こばむものではない、いやとは言わない】の実践である！

終了後の『視野狭窄にならず、複眼の思考を持ち、ニューモア溢れる』スタッフ会議では『人生の心構えについて』(下記)が 大いに話題になった。

- 20&30歳代：人に言わされたことを黙々と がむしゃらにやる
- 40歳代：自分のやりたいことや好きなことに専念する
- 50歳代：積極的に周りの人の面倒をみる
- 60歳代：自分のことしか考えていなかったら恥と思え
- 70歳代：自分のことを語る
- 80歳代：自分の人生をプレゼントにする
- 90歳代：天寿を全うする
- 100歳代：天国でカフェを開く

まさに、『人間の知恵と洞察とともに、自由にして勇気ある行動』[南原繁(1889-1974)著の『新渡戸稻造(1862~1933)先生』より]】の心得であろう！

(次ページへ続く)

3月23日は、2008年から始めた『東久留米がん哲学外来』& 2007年から始めた『読書会』である（添付）。新渡戸稻造（1862～1933）著『武士道』（岩波文庫、矢内原忠雄（1893～1961）訳）と内村鑑三（1861～1930）著『代表的日本人』（岩波文庫、鈴木範久訳）を交互に読み進めている。今回は、内村鑑三著『代表的日本人』である。『継続の大切さ』を痛感する日々である。



3月のお茶の水メディカルカフェ

温かな3月の午後 お茶の水メディカルカフェが始まりました。集う方は初めての方、他のカフェからお茶の水メディカルカフェを紹介された方、樋野先生のことばの処方箋を頂きたくて来られた方、新しくカフェを立ち上げるために来られた方、皆さん様々な思いで来られます。

それぞれが各テーブルに座って色々な思いを話します。いつも同じではなくお互いがお互いを分かろうと耳を傾けています。今回は手話通訳者が同席の方もいらっしゃいました。色々な会話の方法があり、みんな相手の思いを知りたいと真剣に聞いて、日ごろの思いを話して伝えています。14年前の立ち上げからお茶の水メディカルカフェが始まり、そのころ来ていた方が何年も来ることができず久しぶりに来られました。それでも昨日会ったように話しができ、カフェの中に入っただけ。がんという病気だけの話ではなく多岐に亘って色々な事が話せる。顔と顔を合わせて対話できる。それがお茶の水メディカルカフェの魅力なのだと感じます。何か話さなければならないということではなく、ただ黙っていてもよいのです。安心してここにいられる。安心して話せる。来られた方お一人お一人が大切な存在。ここに流れている温かな愛を感じます。来月はどんな出会いがあるのだろうと期待してカフェで皆さんのご参加をお待ちしています。

スタッフ一同、皆様のご参加を心よりお待ちしています。

がん哲学外来・お茶の水メディカルカフェ in OCC スタッフ 青木美由紀

